

## 細浦地区の住民がオランダ島を清掃 地域連携へ町民の船を利用

織笠地区コミュニティ推進協議会織笠ブロック（昆清ブロック長）では9月12日、町の「町民の船」運航事業を利用してオランダ島の清掃作業に取り組みました。奉仕活動を通じて地域の連携を深めように行ったもので、同地区の住民ら30人が参加。観光船「かもめ丸」に乗船してオランダ島に上陸し、砂浜の清掃に汗を流しながら豊かな自然の大切さを再確認していました。「町民の船」運航事業は、自治会などの団体が行う公共的な活動に限り無料で利用することができます。申し込み方法など詳しくは、町水産商工課観光振興係（☎82-3111内線223）へお問い合わせください。



早朝のサイレンとともに高台へと避難した大沢地区の住民（上写真）／山田漁港では、町消防団員らにより流出油災害を防止する訓練が本番さながらに行われました



## 町総合防災訓練を実施 有事に備える心構え新たに

9月5日、町総合防災訓練が行われ、関係団体や町民など2,453人が参加して万が一の災害に備えた各種訓練を繰り広げました。町民の皆さんを対象とする津波避難訓練では、町全体で1,591人が高台などへ避難したほか、白石集落部落会と関口部落会による非常食糧炊き出し訓練を実施。山田漁港では、漁船からの出火を想定した陸と海からの消火活動や、港内へ油が流出した想定によりオイルフェンスを張って油の拡散を防ぐ訓練が本番さながらに展開されました。最後に災害対策本部長の沼崎喜一町長が、「有事へ備える心構えを新たにし、訓練の成果を持続させてほしい」と訓示を述べました。

## ヒラメの稚魚約10万匹を放流 資源の増大に期待を寄せて

県が実施するヒラメの稚魚の放流事業が9月14日、山田湾と船越湾の合わせて3カ所で行われました。ヒラメの資源増大を目的に、漁業者や漁業団体、関係自治体の負担金、一般の遊漁者から寄せられた募金などを資金として毎年約110万匹の種苗（体長10センチの稚魚）を放流しているもので、県内で釣れるヒラメのうち約2割がこの放流魚となっています。この日は岩手県栽培漁業協会が大槌町の中間育成施設で生産した約10万匹の稚魚が、町内各漁協の職員らの手により放流されました。県内では、岩手県海区調整委員会指示により体長30センチ未満のヒラメの採捕が禁止されています。資源保護のため、遊漁者の皆さんのご協力をお願いします。



約10万匹の稚魚を放流する町内漁協の職員（上写真）／放流された手のひらに収まるほどのヒラメの稚魚





今月の題字

奥村 祥樹 くん  
(豊間根小 4 年)

# 町のわたい

## ふるさと体験塾で縄文土器作り 古代人の暮らし思い浮かべ

9月11日、町教育委員会主催の「ふるさと体験塾」が町中央公民館を会場に開かれました。この日は町内の小学生13人が参加し、縄文土器作りに挑戦。本町の遺跡から出土した本物の土器を見ながら、縄や木のへらを使い粘土で作った土器に模様付けを行いました。途中、講師から縄文時代の文化について説明があると、子供たちは自分が作った土器を見つめながら古代人の暮らしを思い浮かべている様子でした。土器はその後1カ月ほど乾燥させ、青少年の家で野焼きを行い完成となります。



## 「喜寿を祝う会」に118人 心温まる催しに大きな拍手

長い間社会のために尽くされ、めでたく喜寿を迎えられた皆さんに感謝と敬意を表する「喜寿を祝う会」が9月25日、町中央公民館で開かれました。これは77歳の方を対象に全地区合同で行われているもので、当日は対象者236人のうち118人が出席し、共に長寿を祝い合いました。会場では、食生活改善推進員の皆さんにより出席者に作りたての温かいお弁当が振る舞われたほか、アトラクションとして保育園の園児や婦人団体協議会などによる踊りが披露され、参加した皆さんは心温まる催し物に惜しみない拍手を送っていました。

## 消防救急フェアを開催 救命に対する理解を深める

9月12日、山田消防署で消防・救急フェアが開催されました。9月1日の「防災の日」と9月9日の「救急の日」にちなんで行われたこのイベントには、消防車への試乗やレスキュー訓練を体験できるとあって多くの親子連れなどが来場。火災を想定した煙体験や小型消防ポンプを使った消火訓練などに次々と挑戦しました。会場では応急手当や心肺蘇生法の講習も行われ、参加者は救急救命士らの指導を受けながら実際にAED（自動体外式除細動器）の操作を体験し、応急処置や救命に対する理解を深めていました。

